

第1部 4.6 第2部 4.6 (5点満点中)

<松園さんのお話しについて>

- 教育の一環で子供たちが主体的考え行動を起こすまでを何らかの形で補っていくと未来が明るい。
- キャリア教育の推進の仕方の具体を聞くことができました。どこの学校でも実践していることのようにですが、ねらい（目指す子ども像）を明確にすることや、講師と目的を共有した上で実施することなど、実践上におけるポイントをしっかり位置付けていることがとても参考になりました。一連の取組を通じて、子どもたちの現在（学習意欲等）がどのように変容したのか等、もっと聞いてみたいと思いました。
- 外部人材を活用した取組が生徒の主体性向上につながることを学び、とても参考になりました。
- キャリアプログラム、学校と生徒と社会を繋ごうと努力されていることが伝わってきました。先生でも親でもない多くの大人と関わることで、子供の思考の世界も広がると思いました。また少し閉鎖的な学校にいる教員にも同じことが言えるように思いました。
- かなり考えて実践していると思った
- ✓ 外部人材との協働の具体的な例を伺うことができました。学校側の狙いの共有がポイント、教員間の連携（管理職を含む）、学校全体の目標としてプログラムすることが大切だと感じました。部活動のあり方自体もこれからの学校教育での大きな課題となることが理解できました。（岩本）
- ✓ キャリア教育を進めるにあたり、学校と社会の協働・連携の取組みに共感！素晴らしい！校種に関係なくすべての学校がこのようなコミュニティに取り組んでほしい。（吉田）

<鈴木さん・北広さんのお話しについて>

- スポーツを通じて過去の成功体験が強みにも弱みにも出ることを学ぶ機会があれば。
- （北広さんとの対談を含めて）部活動は何のために行われるのかといった、目的をあらためて見つめる良い機会となりました。医学の側面から、発達の段階を踏まえた運動部活の必要性など、広く保護者にも周知したい内容でした。部活動には文化系もあり、目的としては異年齢集団でのコミュニケーションや、学習意欲の向上等があると思いますが、そういった本来の目的をもっと学校と保護者が共通認識を図ることが、今後大切になってくると思いました。
- 目的と目標の違いをよく理解できた。行事やイベントを目的化しないよう、気を付けなければならないと感じました。
- スポーツ、運動能力をあげるには、4歳～13歳の間に、どれだけ多くのスポーツをするかによって、その後が変わるというのは興味深く思いました。今は外で駆け回っている子供が少ないことが心配です。また、結果よりも過程を評価ほめることは、教育だけではなく、人間関係にも大切なことを教えていただきました。
- スポーツの専門家であるが、より高い見識をもち、話しは説得力があった、また分かりやすかった

- ✓ 確かなデータに基づいており、どんな方にも理解しやすい話題を提供していただきました。子どもの時に 400 個の筋肉の動かし方を体得させていくこと、十分な睡眠時間の確保は脳の整理時間であることなど、参加者は皆納得した表情でした。ますます、幼小中高大の時期のそれぞれの特性を踏まえ、それぞれの教員や保護者の相互理解を図ることが重要だと再認識させていただきました。
- ✓ 大変勉強になりました。「結果ではなく過程をほめる」「4～13 歳でいろんなスポーツ等の機会を与える」目からウロコでした。（吉田）

＜北広さんのお話しについて＞

- 立場によって「しなければならない」と思っている「とらわれ」に気づく様自分を俯瞰出来る方法を探してきたい。
- お話の中から教育に対する温かく、強い思いを感じました。
- 子育て中のシンガーソングライターさんということで、さまざまなご苦労もあるかと思いました。もう少し、ご自身の子育ての苦労や今の子供達に対して、思うことを、お聞きできたらと思いました。
- 親の立場からの考え、思いを鈴木さんとの対話のなかで良く話をしていた
- ✓ 保護者としての質問にご自身のご意見を、鈴木さんとの対談の形でお話しいただいて、とてもわかりやすくお聞きすることができました。（岩本）
- ✓ 保護者目線からの北広さんはじめ、オリンピック鈴木さん、そして道下さん、三者のトーク・やり取りスムーズでよかった。（吉田）

＜第2部の感想＞

- 義務教育で教えて知能をつけることもしないといけないし、スポーツを通して、心・技・体を鍛え、加えて、道徳など自ら考える力のインテリジェンス（知性）も育てる機会が子供達には必要ですね。
 - 学校現場が忙しいという声があることは、事実として改善する必要があると思いました。そのために、通知や学習指導要領等で示されている「指導体制に見合った教育課程の編成」を行っていく必要があるのだと改めて思いました。そのために、どの教育活動を、どのように整理するのかといったカリキュラム・マネジメントの視点（各学校が校長の責任の下で教育課程を見直すこと）を、管理職を中心にしてもっと大切にするべきだと思いました。近年は、多くの学校の教員が、自分達で自分達の学校のカリキュラムを分厚くしすぎている傾向があると感じています。
 - ごめんなさい。先約があり参加できませんでした。
 - 以前は、数名のグループに分かれての交流があったので、その方が、話しやすい感じがありました。司会の方が気遣ってくださって、お話しできそうな方にマイクをさりげなくまわされていたので、その雰囲気は良かったです。
 - 良かった
 - ✓ ゲスト3名の質問から参加者からの質問や意見に広がった、様々な観点の意見があるなあと感じました。座談会形式で皆さんの顔が見える状態で、一人一人からの感想を伺えたのがとても良かった。特に鈴木さんが色々な情報やアイデアを出していただいたので話がわかりやすくなったと思います。
- 一人一人の発言回数が少なかったが、お話のやりとりを期待していた方には少し時間が足り

なかった感じだと思います。意見の中にあった、大人が考える学校教育と同時に、子どもが考える（望む）学校教育をとというのは今後のカフェに必要な要素だと感じました、（岩本）

✓ 今回の座談会形式もそれなりの意見交流もあり、成果があったのでは！（吉田）

＜新たな繋がりはできましたか？「猫の手カフェ」へのアイデアを募集します＞

- 参加者の皆さんのお話を聞きたいです。私は自分が何ができるか、こちらの会のニーズと参加者の方のニーズなどサーチしている感じです。教員先生や教育委員会なステークスホルダーの方々のニーズをいろいろ学ばせていただきました。
- 新しい具体的な繋がりはありませんでした。主催者含めて、参加者どうしで、交流する時間も少しあると良いかなと思いました。最近の子供を見ていると、失敗することにとってもおそれているように思うことが、あります。空気も読みすぎる子供も。子供が生きづらいということは、大人(教員)にも、生きづらさがあると思うので、そのようなことも考えていける交流も、あると良いように思いました。
会を運営されている方々の皆様には、当日、大変お世話になりました。ありがとうございました。
- つながりはできました。教員以外の人たちの話を聞きたい。
- ✓ 「未来の学校・未来の教育を考えるリレートーク」の「学校と社会の協働」というのは今後も継続する必要性を強く感じました。（その中で幼・小・中・高・大・社会の例を取り上げていくべきだなあと感じます）ただ、「未来の教育」は「これからの教育」にする方が、より「今」に近づく感じがするのではないかと思います。（岩本）
- ✓ 「前回までのカフェに参加いただいたスピーカーの方のその後」（吉田）

以上